

日本基督教団 東中国教区ニュース



東中国教区
教区ニュース誌委員会
〒720-0048
倉敷市鶴形一五五
倉敷キリスト会館内
TEL 0864-22-1780

説教

「確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。」

(箴言二十三章十八節)

境港教会 牧師 中道 祐太



新型コロナウイルス感染症によつて私たちの生活はがらりと変わりました。

通に売られていた物がなくなったり、LINEコロナの流れになりつつも、まだまだ隣人や家族と分断され、見えないウィルスへの不安を覚えて日々を歩んでいます。この報道が始まってから半年以上もの月日が過ぎたのにもかかわらず、まだまだ先の見えない状況が続いています。日々の労苦と目に見えない不安は去年の出来事さえも忘れてしまうほどではないでしょうか。この不安

に身も心も押しつぶされそうになってこの先もわからない中で、神さまははつきりと「未来はある」と言われています。それはただ単なる神さまの気休めとして人々に語られ聖書に記されているわけではありません。確かな約束として神さまは人々に示されたのです。神さまはそのことをより一層人々に伝えるために主イエスを遣わしてくださいました。主イエスの登場で神さまの約束が終わったのではなく、主イエスは「今、目には見えなくなっているが、神さまの右におられるが、いつかまた会おう」という再臨の約束がされているのです。だからこそ使徒たちはどんな苦難や迫害にあおうとも約束された「未来」と「希望」を信じ歩んできたのです。

今、新型コロナウイルスのみならず、様々な課題や苦難があるからこそ私たちにとつて本質的なこと、神さまから約束されている未来とは、希望とは、命とは何か、礼拝とは何か、教会とは何かということを問い直す機会ではないでしょうか。

一つ一つ問い直すなかで時に私たちはつ

目次

説教「確かに未来はある。あなたの希望が断たれることはない。」	1
教会紹介「米子教会」	2
新任教師オリエンテーションに参加して	3
「こんにちは」のお部屋・編集後記	4



まずきを覚えることがあります。けれども、たとえつまづいたとしても私たちは孤独に一人ではいません。私たちは場所が違ったとしても共に祈り、支え合い、神さまを賛美することのできる共同体という連なった存在なのです。私たちは共に支え補い合い、一つ一つのつまづきや課題を乗り越えていくことがその先にある確かな「未来」に向かって歩むことであり、そのことが何者にも絶たせることができない「希望」なのです。神の愛を信じ、確かに約束されている未来と絶たれることのない希望をもつてたゆまず祈り、共に前へと歩んで参りたいと思います。

教会紹介

・米子教会・

野々川 康弘

米子教会は今年創立百十一年を迎えました。一九〇九年七月に東洋宣教会山陰中央福音伝道館を設立し、伝道を開始したのが始まりです。一九一七年に東洋宣教会米子ホーリネス教会と名称を改め、山陰の地で鳥取、米子、松江の各教会と協力しながら伝道に励んできました。現在の地に新会堂を献堂したのは一九七〇年です。その会堂は半世紀豊かに用いられてきましたが、同時にかなり早い時期から、宣教第二世紀に備え



るべく、新会堂建設の計画を検討してまいりました。紆余曲折ありましたが、主の助けによって二〇二〇年八月に献堂することが出来ました。皆様のお祈りとお支えを心より感謝します。新会堂は、母子室や事務室や多目的室、会議室にもスピーカーが設置されており、期せずして現在のコロナ禍にあつて、礼拝堂のみならず、それぞれが工夫して新会堂の様々な場所に分散して共に礼拝を捧げることが出来ています。主の備えを感謝しています。コロナウィルスの流行という現在の困難な状況が打開されたおりにはこの会堂を用いてさらに福音伝道を活発にしたいと願い、祈っています。

現住陪餐会員は六十七名ですが、高齢のために介護施設に入所された兄弟や病気で礼拝出席が困難な兄弟が増えています。コロナウィルスが流行する前は、訪問し共に賛美し御言葉を取り次ぎ、聖餐の時を持っていたのですが、現在はそれもまま叶わず心を痛めています。一方で米子教会では近年プチ・ベビーブームが起こっています。教会員のもとに新たな命の誕生が続いて、教会は喜びに沸いています。赤ん坊から幼児、小学生など教会員の子どもたちが賑やかに集っています。その子どもたちに信仰継承することが切なる願いです。

現在は牧師館新築の計画を進めています。御言葉を取り次ぐ牧師家の住居が整えられ、

これからも礼拝を大切にし、主を崇めながら、近隣教会と協力して福音伝道に励んで参りたいと願います。



米子教会の新会堂

新任教師オリエンテーションに参加して

蕃山町教会 高根 祐子

七月二十日(月)、二〇二〇年度の東中国教区新任教師オリエンテーションが岡山教会で開催されました。天城教会の吉田慈先生と私の二人が出席いたしました。今年をはじめからの新型コロナウイルス感染拡大を受けて、例年であれば一泊二日の日程で行われているところ、今年度は半日のみで、また参加対象者もたまたま少なかったために、こどもまると行われました。

私は新卒で赴任いたしましたので、神学生の中には教区総会の当日のお手伝いくらいしか、教区とのかかわりがあり

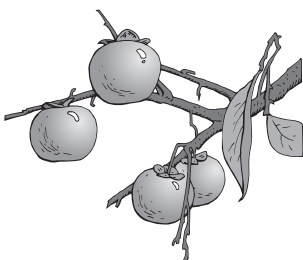
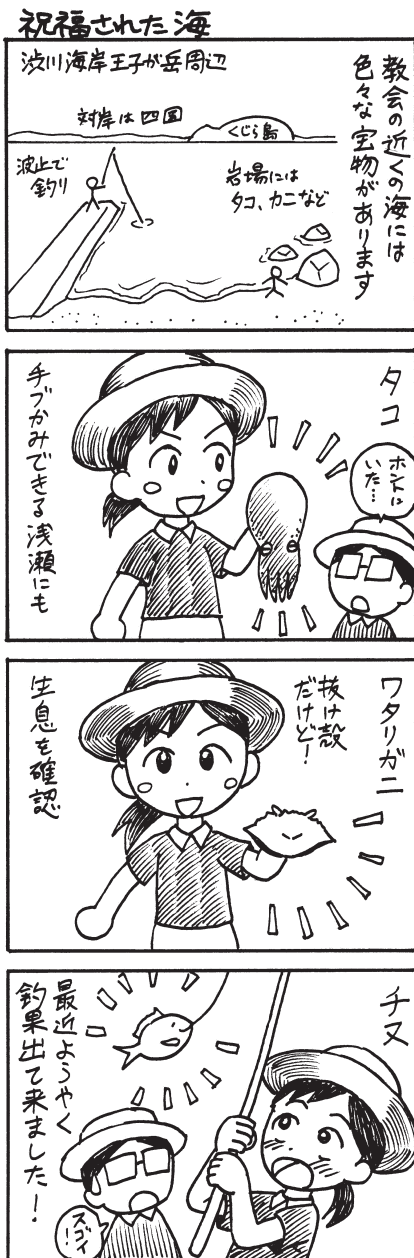
ませんでした。また、教区のはたらきについて、ごく一般的なことについては神学校で教えてもらいましたが、正直言ってあまりイメージが持てないまま岡山に参りました。東中国教区が日本で二番目に小さい教区である、ということにも気がついておりませんでした。

オリエンテーション当日は、教区の活動全体の概略についてまずご説明いただき、そのあと各委員会の活動についてそれぞれご説明いただきました。今年度は教区総会も開くことができませんでしたし、新型コロナウイルスの感染状況の動向が不明である中、各組織とも計画されたとおりの活動を行えない、非常に異例な時に当たっています。ひとまず、教区の助成金を頂いて、しばらく怠っていた健康診断をきちんと受けようと思いました。

天城教会 吉田 慈

「晴れの国岡山」のつもりで来たところ、なんだか今年はそうでなかったようで、どんよりした梅雨を過ごし、急に猛暑の中、皆さんとお目にかかりました。私自身も、コロナの影響で、二週間外出がままならないうちでのスタートで、覚悟はしていましたが、今まで教会が大事にしてきた、「交わり」が制限され、がんじがらめの中の牧会は、皆さま同様、困惑と困難を伴うものでした。

瀬戸内海から日本海にわたり、南北百五十kmの教区内。沖縄に次いで小さい教区でありながら、その困難さを受け止めながらも、それぞれ各地の「ちがい」や「豊かさ」を大切にしながら、「交わり」を大切にしながら、歩みたいと思いました。



「こんにちは」のお部屋

「岡山のおいしいものの発見」

岡山博愛会教会 渡辺真一



2019 まびくらフェスティバルでの青ウナギつかみ

二〇一六年に岡山博愛会教会へと遣わされた。教会の目の前には一級河川旭川が流れている。鮎でもおらんかなとノベ竿を出してみたところ、地元の方に声をかけられる。ここは海水がよく入るから鯉や鮎は難

しい、アオウナギでも狙ったらいいと。アオウナギとは何ぞや、聞いたことがなかった。ああそうですかと生返事。後日、調べてみると実に興味深いことを知った。

一八八九（明治二十二年）年、大阪で開かれた鰻の品評会にて、日本各地の鰻の中から美味なるものとして宍道湖の鰻と岡山青江の鰻が最終的に選ばれ、両者双璧ながら風味の点で岡山青江の鰻が勝るとされた。とある。こうして岡山の青鰻は日本一の鰻として認められ、現在でも「西の横綱」とさえ言われている。

獲れた青鰻のほとんどは最高級品として東京築地に向かうそう。そんな中、近くに住むある年配の漁師さんが、獲ってきた青鰻を自宅で販売していることを知った。驚いた、国産養殖鰻とはほぼ同等の値段だ。普通、鰻を捌くとどうしても手に臭いが残ってしまう。しかし、捌いたところからして全く泥くささがないことにも驚いた。そして、脂を乗らせた養殖の鰻とは全く違う。身肉は引き締まりあっさりとした淡泊その



旭川でとれた鰻

もの。タレを付けずに、ぜひ白焼きにして素材のもつ素晴らしさを味わいたい。天然の青鰻の脂が乗る旬は、まさにこれから晩秋にかけて。ニホンウナギの完全養殖が成功したとはいえ個体数の減少に配慮しつつ。

※二〇一九年まびくらフェスティバルにて、青鰻つかみを子どもたちにしてもらったあと、多くの方々に味わっていただきました。

編集後記

コロナ禍の影響で私たちは、生活様式をだいぶ変えざるを得なくなりました。教会の礼拝は、非対面のウェブ中継をしたり、家庭礼拝をしたり、一部と二部に分けたり様々な工夫をしています。個人的には教会でコーヒー奉仕の機会が減ってしまいました。それでも「いむずかふえ」は続いています。このニュース誌一七九号は、先日の編集会議で通常の八面から四面にすることを決めました。今年のコロナ禍で教区と地区そして各教会の様々な行事や集会などが中止になってしまい、例年のような記事を書くことが難しくなったわけです。それでも続けて休まずに発行できたことを主に感謝します。このような困難で苦しい状況でも良いことがあるのではないかと楽観的に、肯定的に考えながら過ごしたいです。

(いむ)